

# 平井木工挽物所

世界でひとつだけの  
木の万年筆を  
手作りします

天然木の万年筆やボールペン「雲舟シリーズ」は一つひとつ手で作るので、同じものはひとつとしてないです。使用する天然木は屋久杉、黒檀、カリンのこぶなど稀少な銘木ばかり。そんなもので作れるのか？という難しい素材で注文がきても「できませ」とつい、引き受けてしまいますわ。しかも、安い値段でな(笑)。木のことを知り尽くしているから、木目や模様がどうすればきれいに出るかを計算しながら削ってます。

僕が作れるのは、左右対称で丸みのあるもの。丸いものなら何でも削って作れますわ。不器用だから木を削るしかでけへんけど、好きで選んだ道をずっと続けていくつもりです。

代表 平井 守さん

花梨のこぶ、紫檀、屋久杉など貴重材の木材を使う。  
今では手に入らないものも多く、木材をストックしている



取組は匠「じやう」が、  
産地「うぶ」の良材を、  
選んで作る「せんせい」。

木の目が通るよう、  
ボディ、キャップ、ペン先に分けて  
けずってもデザインの一貫性を  
考えながらけずっていく

世界に1本だけ



木をさわっただけで、  
硬い、やわらかいなどわかる。  
やわらかいものは  
けずるのが扱いにくい

技の見せ所





## 天然木の万年筆、ボールペンが大人の文房具として話題！

平井木工挽物所といえば、天然木を削って作る万年筆、ボールペンが有名。数多くの雑誌や新聞、テレビなどでも紹介され、「大人のこだわり文房具」として注目されている。

工房は34年前、平井さんが23歳の時に創業した。傘の先端部や柄、化粧筆、筆ペンなどを挽き物で作っていたが、安い輸入品におされ、さらに指を怪我したこともあり、一時は廃業も覚悟したと言う。それでも「不器用だから、木を挽くことしかできない」という職人魂と、筆ペンを制作していた経験から、木を使ったオリジナルの文具を作ろうと考えた。

平井さんの木工挽物は、ろくろに木材を取り付け、回転させながら刃先がするどく曲がった「シャカ」を木材にやさしく当てて削っていく。木材には図面や下書きもなく、手の感覚だけで流れるような速さで形が出来上がっていく。手作業なので、同じように見えても1本1本違った風合いも醸し出す。最近では、退職祝いや結婚式の引き出物として贈られたり、百貨店での展示会で出店依頼がくるなど、脚光をあびている。万年筆はカートリッジ、コンバーターの両用式。ボールペンの芯も替えることができるので、長く愛用できる。今後は文具に限らず、新たな製品づくりにも意欲的に取り組んでいく。

### 平井木工挽物所

http://www.oct.zaq.ne.jp/afara208/  
〒544-0004 大阪市生野区巽北3-1-24  
TEL・FAX 06-6752-3875

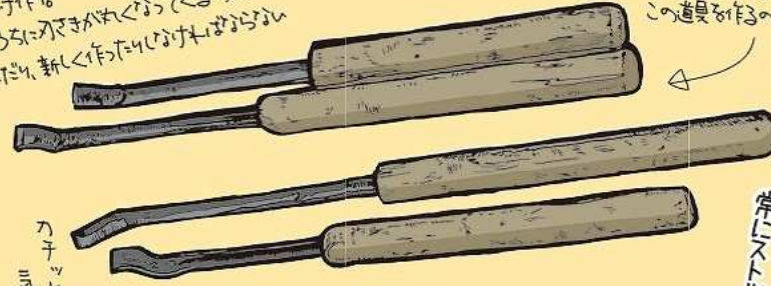
事業内容／木工製品企画・製造・販売（ろくろを用いた伝統的な木材加工の技法で、天然木の手作り万年筆、ボールペンを製作。そのほか、高級筆ペンなどの木工製品も手がける）

木の性格を読まないといけません



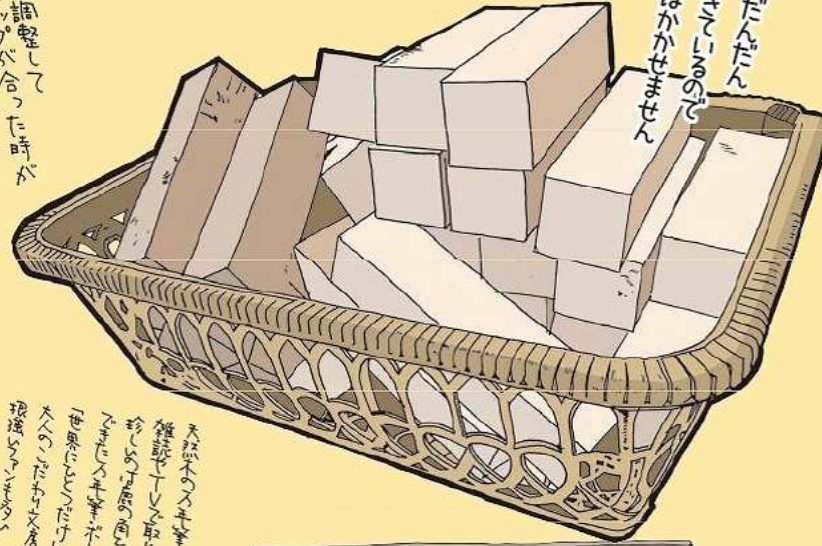
シャカと削れる時は削る道具は自分で作る。使ううちに刃先が丸くなるので砥石で、新しく作りたい場合は丸い

木工挽物は練習をつまぶできるように削るが、この道具を作るのがまた難しい



「微調整してカチッとキャップが合った時が気持ちいい瞬間です」

貴重な木がだんだん少なくなっている。削りカスもゴミとして処分されている。削りカスは再利用したい。



天然木の削りカスは再利用したい。削りカスは再利用したい。削りカスは再利用したい。

削りカスのやわらかいベッドで昼寝中のワンちゃん



我が社の自慢

テニスと詩吟が趣味です！



平井さんは55歳からテニスに目覚め、今では週3回インドアのテニススクールに通っている。さらに2年ほど前から奥様に誘われ、詩吟も始めた。年齢に関係なく、おもしろいと思えば積極的に挑戦する意欲が、平井さんの元気の源だ。